

決定!

自分たちの自由なアイデアを実現するチャンス!

甲南21クリエイティブプラン

学生たちが自ら考えた企画を募集し、優秀なプランには大学が援助を行うというユニークな試み「甲南21クリエイティブプラン」。具体的には、学内・外でのボランティア活動およびコミュニティ事業、ベンチャー事業などを果敢に企画・運営するプロジェクトを募集しています。ここでは、2003年度の優秀案に選ばれた3つのプランを紹介しましょう。

PLAN 1

「高校生物におけるバイオテクノロジー教材の開発」

理工学部生物学科 大学院生 平田 礼生 他3名

バイオに興味を持ってもらうため、自分たちの研究成果を役立てたい



トマトとジャガイモから“ポマト”、メロンとカボチャから“メロチャ”をつくり出すなど、私たちの常識を大きく覆してしまうバイオテクノロジー。理工学部生物学科植物生理学研究室では、今回、そのバイオテクノロジーの発展において、重要な役割を果たす一つの事実を明らかにしたと言います。研究室の平田さんはこう語ってくれました。「植物の細胞から細胞壁を取り除くと、プロトプラストという球状の細胞が得られます。いま植物を題材にバイオテクノロジーに取り組む研究者は、このプロトプラストに注目しているんですね」。平田さんたちの研究室では、プ

ロトプラストを簡単に単離し、短時間で細胞接着・融合の様子を観察できる方法を開発したとか。この成果は科学雑誌「遺伝」に取り上げられて全国的な話題となりましたが、話はそれだけで終わりません。

「この実験を、高等学校などでも手軽に試してほしい。バイオの世界の面白さを、もっとみんなに伝えたいと思ったんです」と平田さん。その想いから、今回はクリエイティブプランの一つとして、高校の授業時間内で細胞融合の様子を観察するための“バイオテクノロジー教材”の開発に取り組んだそうです。「難しいのは、誰が実験しても同じ成果が得られるように工夫すること。そのために例えば、試薬は最初から適度に配合したものを凍らせたり、実験手順を撮影してビデオにするなどの知恵を絞りました」と、試行錯誤の過程を振り返ってくれました。ようやく完成した教材キットは、甲南高校をはじめ、試験的に取り入れた学校からの評判も上々とか。「この成果に満足せず、自分たちの研究を還元していく活動も、ますます積極的に取り組みたい」と、今後についても意欲十分です。



PLAN 2

「学生ベンチャー向上サミット ~学生企業家間ネットワークの構築~」

経営学部経営学科 3年次 東海林 由子 他5名

学生ベンチャーは、どうすればもっと面白い? 全国に呼びかけ、共に可能性を探る



自分たちの手で会社を興して運営する“ベンチャービジネス”は、何も社会だけの話ではありません。甲南では、学生によるベンチャー企業“K.C.&co.”が、2年前に立ち上げられ、以来、一年ごとにより発展的な目標を定めた活動を行っています。

母体となる企業家研究会の代表の東海林さんは、その魅力についてこう語ります。「学生のうちに会社を興し、ビジネスを経験できるのは貴重な体験。「できる」「できない」じゃなくて「やってみよう」という思いでチャレンジできるのは学生の特権です」。



今回企画された「学生ベンチャー向上サミット」は、そんな学生ベンチャーのさらなる可能性を探る試み。他大学でベンチャー研究に携わる学生グループとのシンポジウムで情報交換を行い、今後の活動にフィードバックすることを計画しました。「クリエイティブプランに採択されてすぐ、関東・関西の学生ベンチャーに参加を呼びかけていったのですが、最初はコンタクトをとるのが難しく、なかなか進展しませんでしたね」。それでも屈することなく精力的に取り組み、参加を呼びかけた数は、関東・関西合わせて50団体。そのうち4団体の賛同を得て、当日は熱い意見交換を繰り広げることができました。参加した学生たちだけでなく、会場を訪れた方々からは「今までにない試みに刺激された」と好評の声が多く聞かれました。シンポジウムを終えて、東海林さんは「経験や知識の不足、組織連携の弱さなど、学生ベンチャーが短命になりがちな理由が見えてきました」と、これからの課題を認識。「今後もこのような機会を積極的に生かしていきたい。そうすれば、学生ベンチャーにできることはもっと広がるはず」と大きな手応えをつかんだ自信をのぞかせました。

PLAN 3

「甲南大学における『持続可能な』循環型コミュニティの創造～環境ボランティア活動～」

文学部 4年次 藤井孝明 他19名

自分が変われば、もっと環境を変えられる その実感を、キャンパス中に伝えたい

環境問題の研究を専門に扱う文学部人間科学科谷口ゼミのメンバーが立ち上げたこのプランは、一昨年、昨年に続き、3度目の採択となります。「ここで言う『持続可能な』循環型コミュニティ」とは、資源をできるだけ無駄にせず、逆に自然を再生してい



く力を持つキャンパスのこと。僕たちはそんな大学づくりを推進しようとしています」と、代表者の藤井さん。これまでも大学生協や管財課などと連携したゴミの分別・リサイクルや花いっぱい運動などを推進。学内に野生の生き物が生息できる水辺、ピオトープをつくらしたり、谷口教授の指導の下、環境活動について国際会議で発表するなど、さまざまな活動を行ってきました。「これまでの活動で下地ができていますので、今年はそれを来年、再来年に向けてもっと発展させていくことを目指して活動しました。大学祭のときの容器分別回収もやり方を見直したことで、前回30%程度だったリサイクル率を70%程度まで引き上げることができました」と活動の発展ぶりを報告してくれました。また、とくに忘れられないのが、甲南大学の施設がある広野に自分たちで小屋を建て、自給自足の生活をしたことだとか。「電気もガスもない環境で4泊5日、朝はワラの隙間から差し込む太陽で目が覚める毎日でした。最初は不安でしかなかったけど、これを体験したことで、自分たちがどういった環境に支えられて暮らしているのかがはっきりとわかるようになりました」と藤井さんは語ります。こうした環境活動を通して得た一番大切なこと。それは「自分一人の意識が変わることでもっと多くの人に働きかけられる」という実感だとか。環境活動は大事とわかっていても、自分から取り組むことは難しいもの。しかし、今年クリエイティブプランで活動した彼らの影響によって、きっと甲南の環境活動はますます広がりを見せていくことでしょう。

CAMPUS CALENDAR

4月



- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 前期講義開始
- 甲南キャン
- 新歓祭
- 就職ガイダンス
- 対学習院大学運動競技総合定期戦開会式

5月



- 学館祭
- 現代講座
- 春期公開講座
- 総合研究所講演会
- 留学生フェアウェルパーティー

6月



- 文化会フレッシュマンハイキング
- カウンセリングセンター講演会

7月



- 体育会フレッシュマンキャンプ
- 前期講義終了
- 前期試験
- 夏期休暇開始
- 夏期公開講座

8月



- オール甲南の集い
- 海外語学講座
- 文化会キャンプ
- 夏期公開講座

9月



- 留学生ウェルカムパーティー
- 夏期休暇終了 / 後期講義開始

10月



- 就職ガイダンス
- 秋期公開講座

11月



- 大学祭<演劇祭・体育祭・演武祭・ダンスパーティー・学術祭(現代講座)・キャンパスフェスティバル・プロコンサート・音楽祭など>
- 総合研究所講演会

12月



- 対学習院大学運動競技総合定期戦開会式
- インナーゼミナル大会(経済学部)
- 体育会リーダーズキャンプ

1月



- 後期講義終了
- 後期試験

2月



- 文化会リーダーズキャンプ
- 学内団体表彰式(体育会祝賀会・文化会顕彰会)

3月



- 卒業式